

第2回高砂市文化振興審議会議事録

出席者 田端会長、北野副会長、三井委員、岩見委員、渡邊委員、唐津委員、高橋委員、森本委員、松本委員
事務局 富田副市長、橋本部長、猪子室長、東野課長、福原主幹、前川係長
富士原室長、泉田課長
欠席者 前田委員

1. 開会

【事務局】 定刻になりましたので、ただ今より第2回高砂市文化振興審議会を開催いたします。

開催に先立ちまして、当審議会の公開についてですが、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」に基づき、公開とさせていただきますが、本日傍聴希望者はおられません。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

なお、お手元にお配りしている資料の次第により進行しますので、よろしく申し上げます。

※ 配布資料の確認

2. あいさつ

【事務局】 では、開催にあたりまして、副市長よりご挨拶申し上げます。

(副市長あいさつ)

【事務局】 引き続き、会長よりご挨拶申し上げます。

(会長あいさつ)

【事務局】 では、ここで副市長は所用のため、退席させていただきます。

(副市長退席)

本日の会議は、出席9名、欠席1名により、審議会規則第5条第2項の

規定により、過半数が出席されているため会議が成立していることを報告いたします。

では、今後の議事進行は、会長にお願いいたします。

3. 議題

高砂市文化振興方針（案）について

【議長】 それでは、高砂市文化振興方針について、事務局で案を取りまとめておりますので説明願います。

（事務局説明）

【議長】 説明は終わりました。施策レベルになりますと、市役所部内の方で。具体的な補助制度、国からの助成制度を加味しながら組み立てていくというのは、残念ながらこの場では難しい。この場では方針を立てていただいて。ただ問題は施策が方針と合っているかのチェックを何らかの形でしないといけないのかもしれないですけども。いずれにしても方針をみなさんの間で考えていただいて。ですから方針そのものはそれほど細かいものではなくてもっとシンプルに。いくつかのグループ分けができると思うのですが、その方向性を出すものだと思っていただければと思っております。

【委員】 確認したいのですけれども、スポーツが入っていない。スポーツはここでは入れないという考えで。スポーツ基本法の前文の第1番目に「スポーツは文化である。」と書いてある。法律に書いてあって入れてない理由を確認させていただけたらなど。

【事務局】 スポーツについても具体的に振興方針、振興計画が決められた時点で文化の部分と合わせて再検討していかないといけないと考えております。実際、今も別のものとして考えているわけではなく、一緒にやれるものはやっているものもあります。全く切り離しているわけではありません。

【委員】 広く考えたら文化の中にスポーツがあるということは間違いないですね。

【委員】 そういうことは資料に書いてないといけない。今回はその中の文化のみを審議する。その次にスポーツを審議する。そして両方を仕上げるという、そこまでの資料もいるし、説明もいる。会議の趣旨と進行は、きっちり説明がいる。

【委員】 事務局に提出した基本方針に関する意見書について、他の方の意見も知りたいのですが、資料として出すのは難しいですか？

【議長】 依頼をするときにこれは委員資料として出しますという許可をみなさんにもらっていないので留めています。資料はあります。この場を出していいということであれば出せます。

【委員】 他の会議ではだいたい付いていますよ。参考資料としてね。こういうことがありましたと。次の会議に資料として出すべきだと思います。

【議長】 みなさんのご同意が得られたら出せますが、よろしいですか？委員の意見を否定するような意見があつてはと思い、留めていました。

【委員】 名前を消しておけばプライバシーの問題はないのではないですか。県は名前書きませんよ。参考の意見は書いて、こういう意見があつたということのみ知ったらいいのではないですか。

【委員】 他の人の意見も入れながら。スポーツの部分がないこともまた同じことを言うのも。わかっていれば発言しないので。

【議長】 皆様のご同意があるまでは勝手に進めることはできないので。今用意できるようにであれば配布します。ありがとうございます。ほか何かご意見あれば、進め方でも結構です。

【委員】 「県の会議の進め方に合わせよう」との意見ですが、私は事務局のやり方で進行したらいいと思います。

【議長】 なるべくオーソドックスな方法でということ、なるべく公表していつてみなさんで共通意識を持つというのもひとつの方法です。事務局が判断するのではない、ということに止めた話ですので、みなさんのご同意が得られたらその方向で行きますので。先ほどの件はご同意得られたということを出すようにいたします。これからもご意見を求める際には委員会に出すという前提で、ご意見をお願いします。

中身の方に入ってよろしいですか。表にまとめていただいているのですが、もちろん方針は表ではなく文章で出ささせていただくわけですが、事務局としては整理のために表にしておりますので、表を見ながら結構ですので、言葉の問題も大事でしょうね。考え方、内容についていろんな

意見をいただきたいと思います。意見書で言ったことでも結構ですので、よろしければご意見を賜りたいと思います。事務局ではクラスター分けという言い方をするのですけれども、分けて並べているだけで、ここに重みを付けた方がいいのではとか、これは重要だから第一順位付けたらいいのではとか、そんな意見でも結構です。

【委員】 芸術鑑賞会とか連合音楽会とか以前はあったので、子どもたちがいいホールに立つことも出向くことも、吹奏楽とか入っていれば別ですけども、若いときにいいもの、本物に接するあるいは自分が演奏していくというのは非常にいい経験になると思うので、是非とも復活すればいいなと思うのですが、財政的などところで廃止になったのではないかと思うのですけれども、復活できるものであるのか。意見は出しても実際実施となるとどうなっていくのかなど。高砂といえば謡曲やればよいという意見は出るのですが、私も謡曲が盛んになればよいと思うのですけれども、はたしてご指導の先生はどうなのだろうか。そんなにたくさんご指導に行っていただけの先生がいるわけでもないでしょうし、その先生は先生で専門的に勉強なさった方もいらっしゃるでしょうから、謡曲というのはそんなに簡単に謡えるものでもないでしょうから、我々簡単に謡曲「高砂」だけ謡わせてとか、謡えるようにしてとか、気楽な感じで言えるものかどうか。それこそ文化連盟でも幼小中高生に謡わせてとか、学校通じて浸透させていったらいいとか言うのは簡単ですが、はたしてそれが実際的にどうなのだろうかとか、例えばコンサートを独自でやっておりますが、できたら若い子を育てるために市がやっていただけたらありがたいなど。コンクールなども催して、市以外から、いろんな地域九州、松本とかで、フルートのコンクール、チェロのコンクール、国際コンクールとか町をあげて、全国から人を呼び入れる、そういうこともされてはいますが、実際問題そういうことがわかっているスタッフがそろわないと、なかなか実施に向けて難しくなると。意見を出すことがどこまでどう具体的になっていけるのかというところが疑問に思います。

【議長】 予算的裏付けあるいは実現性がどうかと。ここでは施策レベルは議論しないという話をしたのですが、一方で施策がわかっていると方針を出していくのではないかと。

【委員】 1から7までありますけれども、これについて反対はないわけで、賛成ですけども、会長も言われたように優先順位がどうなるのか。もっと言うとうちの予算がどうなっているのかでしょう。このうちのひとつかふたつドーンと決めないと、全部やりますはいいいことですね、やりましょうかやっ

ても、何もそんなに変わらないのでは。何かひとつ優先順位をここで決めるというのであれば話はするのですが、そんな感じがしますね。この中でひとつやるだけでも大変なことだと思うのですよ。

【委員】 文化は底辺にあるのは市民ですから、7つの中でやれるところは地域、学校でがんばっていただき、どれかひとつふたつはメインイベントとして今年度はどれをしましょうかという方針でいくのがいいのではないかと思うのですけれど、どうでしょうか。

【議長】 事務局に確認ですが、方針というのはだいたい出してどれくらいの期間縛るようなものですか？

【事務局】 基本方針の設定期間は平成25年度から平成34年度までの10年間とし、5年で1回見直しをすることになっています。ただそれまでのところで、この審議会はこれだけで終わってしまうものではございませんので、順次報告もいたしますし、予算計上しましたという報告も順次していく予定にしています。その中で見直しは当然必要になってくると思います。時代背景とかもありますし、ここ数年の間にもっとこちらに力をいれないといけないというのが出てきましたらもちろん変えていかなければいけないと考えております。予算についてはここで予算がつきますとお答えはできませんけれども、先ほど言われたようにひとつふたつに考えていただくのもひとつの方法かと思いますが。

【議長】 7つの方針を見ていただいたら分かるのですけれども、「何を」という点だけでなく「どのように」という部分もある。「WHAT」だけでなく「HOW」の部分もある。「どのように」という部分は、予算だけでなく、組織化するとかいう部分ですから、大きな予算をかけてイベント、とはちょっと違う部分で推進する部分もあります。ですから、先ほど委員からおっしゃっていただいたように、7つの方針を少し色分けして、ここは地域で進めていく、方向性みたいなもの、これは高砂市として、文化はこういうものだという目指すべきビジョンをいくつか分けてみるということも手だと思う。そうすると先ほど委員がおっしゃったように、その中でまずはこれを高砂市はやりましょうというようなものも出せる可能性があると思うんですね。そういった側面でも。それから実現性のところですね、これはやっぱり保障できないわけですね。ここで言ったから来年必ずこれができますとかいうのはなかなか難しい。これは予算の裏付けがあるわけではないので、そこらへんはちょっと議論する上において、これはどの程度市の施策で重んじられるのか何か言っていただけるとありがたいので

すが。もちろん最終的に予算を決めるのは議会ですから、議会が決めていくわけですが。

【委員】 その前に関連で。まずこれだけの7番まで書かれてね、先ほどおっしゃったどれに重点策を置くのか決めておかないと、予算も書きにくいし、取りにくいと思うのです。なんでもかんでも全部書いたらいいという感じで。だからたたき台ですかと言いましたでしょ。この審議会の中で練って、どれが1番で、どれが2番で3番でという形をね、書き方があるわけですよ。全部高砂の文化には必要なことです。だけど今現在の高砂としてね、何を1番で2番で3番でということをしつかり文言でまとめないと、予算の取り方も、方針の向き方も、これではちょっと言いかねると思います。だから今日の審議会ではそれをみなさんに審議していただいたらいかがですか。

【議長】 何を重んじるかということですね。先ほど私が言いたかったことは、この中には例えば「人材の育成」というのはある種やるべきことが決まっていますね。5番というのは難しいですね。「行政と市民の連携、行政の役割」というのは、1番はやるべきものがあってやらなきゃいけないですが、5番はそのためにどうやっていくのか。例えば人材を育成するために行政と市民が連携をしていく。先ほど委員がおっしゃっていたような民間では人材育成のこういうことができで、行政ではこういうことができるから一緒にやりましょうみたいなのが5番のイメージ。そういったものも色分けしながら委員がおっしゃるように、まずは高砂市ではここを中心にやりましょうと、こういう議論がいるかなと。全部一緒のラインでなくてちょっとずつ色が違うので、それを含めながらお考えいただければと言いたかったのです。

【委員】 委員も言われたように継続してやらないといけないものもあるし、その中で1年目2年目はこの内のこれだと。5年10年たったときは全体こうなるのだというね、継続の部分と、力を入れる部分と、それと年次的なもの、立体的になってくればいいかなと。

【委員】 もうひとつ言えば基礎になる部分。これはずっと1回でも2回でもいいから、毎年しなければならぬというものを確立しておかないといけないと思います。3年たったらこの分はいいということはないと思うのです。子どものための音楽会とか発表会とか、基礎になるものは毎年絶対にやらなきゃならないというベースは置いておかないといけないと思う。それから決めていったらいかがですか。

【議長】 まず7つとも重要だということですがけれども、例えばもう少しこれも要るのではないかということもあれば。これはあくまでもたたき台でございますから不足している部分もあるかもしれませんので。もうちょっとこれを入れたらというのがありましたら。まずこの確認だけさせていただきたいのですがどうでしょう。

【委員】 それは大項目の話ですか？

【議長】 大項目が主ですが、何かそれ以外でも結構です。

【委員】 大項目がもうひとつあるかもしれませんが、私なりには切り口は網羅されているとは思いますが、先ほどおっしゃった重点という問題につきまして、昨日連続ドラマのカーネーションで娘が結婚すると。お父さんがいきなり謡曲「高砂」の練習を始めたというのが連続テレビ小説で出ていました。私が危機感を持っているのは、何歳までの人が結婚式に謡曲「高砂」を謡うということを知っているかと。40代以下は知らないのではないかと。ところがテレビで、謡曲「高砂」の練習を始めたということを取り上げてくれているという資産があって、以前市の方も含めた会合で、例えば私が思うのはいろんな会の最初に、ある一節だけでも謡って、絶えず会議を始めると。実は私も12月に社員の結婚式があって、謡いたいと思っているのですが、今日もどこで誰に教えてもらったらいいたろうかという話も含めてですね、やらないといけないと思うのですが、実際できない中で一節だけでも謡う。それが市役所の朝礼とか、月に1回の朝の会で。会議所でもやらない。どこの会社でも経営理念とか方針とか唱和しますでしょ。週に1回ね。謡曲「高砂」をあらゆる会議に。もうひとつは謡曲自体が声の出し方を含めてそぐわないと。そぐような謡曲「高砂」を転じたような高砂市の歌を作るべきだと。それから派生して、高砂市歌が音も含めて今の時代になじまない歌になってしまった。私が小学生の頃は高砂市の市民であることが名誉に思って高砂市歌を歌った記憶があります。どんどん市が発達していくわけですから、歌もそれと同じ歌だったわけですよ。それが工業化社会から変わってきている中において、高砂市歌がいいのかどうか。JCとかが努力されて「ブライダルシティ高砂」という、紙ふうせんのいい歌があるのにほとんど使われない。「新高砂音頭」、あれもほとんど使われない。それでお金を使う前に、あるものをもっと使って、風土ですか何となしに雰囲気在地元に作っていくというようなことを優先順位という意味においてはね。7番のところで空き家空き店舗で半年ほど前からATP、アートタウンプロジェクトで空き家空き店舗を芸術家で埋めようとや

りだしまして、ようやく2件契約ができて、1人は鉛筆で絵を書く方が商店街の空き店舗に入って工房にすると。もう1人は皮のデザインをする人が会議所近辺の空き家に入ってやると。来年から住んでいただけという話になっています。そういうことをやっていくとどんどん広がっていく気がして。私は謡曲「高砂」が本当になくなってしまわないかという危機感を持っていて、ぜひともそれを取り上げてもらえたらと。

【委員】 謡曲「高砂」について言っていたいてうれしかったのですけれども、配っていただいた方針に関する意見書に書かせていただいたのですけれども、意見を出すばかりではなく、まず我々が謡えるようになって、市の職員のみなさんも謡っていただいて、毎回会議ごとに謡って、みんなで、誰かにさせるのではなくて、こちらから発信を毎日習慣のように、少しでも口ずさんで。専門家から言わせたらそんな謡い方と言われるかもしれませんが、全く知らない状態よりも、地元にこういうものがあって、歴史がどうだったのだろうとか、なぜ謡われているのだろうとか、そこに発展していくことになると思うのでね。口ずさむだけでも鼻歌でもいいじゃないですか、MDを作っていたいたり、放送で流していただくなりしてね、親しむということから入っていけたらいいなあと思うのですけどね。

【委員】 小謡だけだったら難しくないです。短いですから。今おっしゃるのはありがたいと思います。

【委員】 祇園精舎は習いますでしょ。それで頭に残りますが、「高砂や」というのはね。

【委員】 小謡だけだったら誰でも謡えるし、単純だから。

【委員】 それこそ60代、70代の東京の方は、「あの高砂」の高砂ですかという風に言われます。

【委員】 私の家は謡曲好きでね。皆お稽古していました。高砂はものすごくいいところだからと言われていました。そんなことですから今おっしゃったご意見は本当に1番に取り上げていただきたいなど。

【委員】 それが今「あの高砂」ですかというのは40代以下では聞かないのです。50代以上はだいたい言いますけれども。40代以下は分からない。だからそれだったらせつかくのものがなくなる。それから3番とかほかのどこ

にも入ってくる。1番にも入ってくる。そういうふうに分類してもらった
らなど。

【議長】 いわゆる文化振興なので、どう振興するかという中で、イメージとして、
誰もが「高砂や」を口ずさめるようにと。要するにみんながある種シンボ
ルですね、シンボル化をすると、そういったところが大項目に入っていない
のではないかということですね。

【委員】 「ブライダルシティ高砂」にも、謡曲は入っていないけれども意味は入っ
ているわけですね。「新高砂音頭」にはまさしく一節が入っている。それ
をダンスにしまっているのです。たまに出すぐらいなのです。それを毎日
やるとね、もっともっと市に対する、わがまちに対する想いとかね、出て
くると思います。

【委員】 盆踊りは自治会も「新高砂音頭」をかけてくれるので、盆踊りでは年に
1回聞いていますけれどね。

【議長】 高砂のアイデンティティづくりというところが項目に入っていていいの
ではないかと。文化はアイデンティティだと。そこをもっと最大に出して、
それをもっと大きく入れたらどうかということですね。

【委員】 それは世界に発信できると思います。単に日本だけではなしに。40代
以下は話を聞いても分かりませんから。今だったら間に合う。

【委員】 尉と姥の長々と仲良く年をとってと、ブライダルと関連しているのです
ね。私もなぜブライダルなのかと思いましたからね。

【委員】 アイデンティティという言葉が出ましたけれども、そういう意味でちょ
っとお金がかかるかもしれないですけども、高砂市の文化祭というかね、
そういうイベントが、文化月間かな、発表の場というかね。例えば11月
中心に、いろんな活動されていますから、文化会館、福祉保健センターを
中心にして、発表の場を考えたらどうかなど。

【委員】 申し訳ないですが秋にあるのです。

【委員】 それを高砂市文化祭として集約して大きくして。

【委員】 文化まつりとして実施しているのですが、市民全部にアピールしてない

だけで。

【委員】 文化連盟に所属している各グループがずっと続けてやっています。でもそれも文化連盟の中でもつながりがなかなか、各団体別になってしまっていて、それなら市が大きくまとまったものを開催して、そこに参加して。

【委員】 公民館もあるし、菊花展があつたりとかね、お茶の会があつたりすると思うのですね。難しいと思うのですが。だから大きくして高砂市文化祭月間としてするのもいいかなと。

【委員】 全部バラバラにしているからね。公民館もひとつひとつで発表会しているからね。

【委員】 他の市町村でもあつたのですが、秋の行事ですね、文化祭と市役所に看板が出ている。高砂はしていない。

【委員】 一部分に参加しているのだとね、参加意識というか、市民の意識というか。

【委員】 市の玄関にも行事がありますと貼ってない。看板が出ていたら市役所の玄関に来たらこんなのがあると分かるけど。

【議長】 市民を文化でひとつにすると、あるいは市民のアイデンティティとして文化があると、このあたりがもっと大方針としてあるべきではないかと、こういう風なご意見ですかね、みなさん。

【委員】 参加することによってね。

【委員】 今日も会議で言ったのですがね、教育委員会、社会教育団体としての文化まつりですね、教育委員会と市長部局とのつながりが悪いというか、片方は教育委員会の行事、社会教育団体の行事に、市の方がはっきりいって、薄情というかつながりがないとね。今回市長部局にきたから市全部の行事、イベントとしていただくいいチャンスだと思います。

【議長】 細かいことはまだ色々ありますが、おっしゃっているのは文化という名のもとに市民をひとつにすると、あるいは文化のアイデンティティを確立させるとか。それから先ほど部局の話をされましたけど、教育委員会との連携

とか色々ありますけれど、そうじゃないのだと。もっとその文化というものでもっと一体で動かなければいけないのではないかと、このあたりなのかもしれないですね。文化でというのはなかなか難しいところがあると思うのですね。みなさんが共有できるかということもありますし、ただ幸いにして高砂の場合多様な文化がありますから。その一方で謡曲「高砂」というアイデンティティを持つと。一方で広く、一方で謡曲「高砂」というひとつのシンボルと、このあたりをどううまく持ち出してくるかというのが課題になるかもしれませんけれど、みなさんおっしゃっているのはそのあたりなのかなと思うのですけどね。ご意見いただいてない方でどうぞ。

【委員】 先ほどから出ているブライダル都市ですけど、10年ももっと前から高砂市はブライダル都市だと言いながら何もなく、よその都市では市をあげて合コンや見合いみたいな、いま高砂市でもやっているようなことを新聞で見ますけれど、あまりよそ以上にやっているというのが見えない。例えば、結婚したら市の方から助成金が出るとか、補助があるとかそういったこともないし、名前負けしているのではないかなと、そういった気がするのです。せっかく名前が付いたならそれをもっと深めるか、今言われたような謡曲「高砂」をもっと出前サービスで演ずるとかすれば？

【委員】 震災の年までブライダル都市の結婚式をしていました。その年にやめようかと言っていたが、震災で結婚するつもりの人が結婚できないとかあるじゃないかと、こんなときこそ増やそうと増やした。それが最後です。それまで毎年していましたよ。

【委員】 謡曲の話で、高砂のまちを案内して歩くときに必ず高砂神社へ寄ります。そのときに門を入ったところに九州からきた神主さんが杖をさし、その杖から枝が出たという木があります。そこへ行って説明するのですが、そのときに謡曲「高砂」が謡えたらいいのになあと。謡曲を知る人にテープを借りて、自分では謡えないがそれを持って行って最初に流したりすることがありました。しかし、高砂のまちを歩くのにいちいちラジオを持っていくのも大変だし、最近ではやめてしまったが、いま言われた謡曲をできるだけ大勢の人が覚える機会があったら、我々も飛びついて覚えたいと思います。

【議長】 市民共有財産である謡曲「高砂」をひとつのシンボルとしつつ、文化で市民のまちへの誇りをとり戻すとか、まちへの誇りを醸成するとか、こういうものが大方針の大きな柱に持ってきて、そのための手法として、人材育成がいる、子どもへの学習機会がいるという、こういう風にしたらどう

かということですかね。

【委員】 それとですね、これがなぜ広まらないかというのが、一節をどこで区切るか。おととしくらいから私提案して新年交礼会でもその前にやってもらうのですけれど、長すぎて結局どうしたらいいのかと。私は朝礼でもできるくらいのコンパクトな。

【委員】 だから「月もろともに出汐の」まででいいです。坂牛さんが作曲してくれたときに謡曲「高砂」を入れた歌を作ってくださいと、それで組曲高砂ができて、「月もろともに出汐の」までを前に入れて組曲高砂を作りました。あちらこちら歌いに行きました。コーラス部で。前座で。必ず歌いました。そこまででいいです。

【委員】 1番から7番のところで、そういうものを作ってもらわないと単に謡曲「高砂」といっても、結局長いですから、結局話が終わってしまいます。どうしたらいいか分からないので、ひとつのコンパクト版を作ってもらってそれを教育すると、さっと広がると思います。

【議長】 みなさんがおっしゃっているのは、これは項目としては構わないのだけれども、背骨の部分がないのではないかと、それがなくともおそらくどういふことをやろうとしても難しいのではないかと、そういう風なご意見かと思うのですが、ちょっと事務局に確認だけなのですが、これを作る前に条例の方針がありましたね、あの中に先ほどいったようなことは出ているのですかね。

【事務局】 基本理念のところにはあがっております。

【議長】 謡曲「高砂」をシンボルとして持ってこれるかどうか。謡曲というのは習い事であり、かつ弟子制度で動いてきたものである。はたして持ってこれるかどうか。一方でそこまで考えなくても、もっと利用したらいいのではないか。謡曲「高砂」をひとつの文化のシンボルとして考えるというのは、今作る方針の中に入れても構わないわけですね？

【事務局】 はい。

【委員】 例えば姫路おでん。姫路おでんは私たちも高砂でも食べている。姫路おでんと言う者勝ちで。高砂だけのものと言うまではいかないが、謡曲「高砂」といえば高砂ということで進めていったらいいのではないか。

【議長】 習い事としての謡曲とは切り離して、文化振興の側面として、謡曲「高砂」を利用させていただくのはどうかということですね。

【委員】 基本方針についてですが、後のアンケートに入れてほしいことがあったのですが。高校生に高砂がどこにあるのかと聞かれば、謡曲「高砂」のまちと言えば昔は通じていたが、今は謡曲「高砂」と言っても通じない。自分のまち高砂がどういったまちなのかを言える基本方針を。それに謡曲「高砂」が一番簡単で、イメージがあるし、ブライダル都市を宣言しているからブライダル都市というのもひとつだし、どういうふうに言って欲しいか私たちがまとめていければ、みんながひとつになるものになるのではないか。

【委員】 中学校で謡曲「高砂」を子どもに謡わせることは難しい。以前高砂小学校でやっていたのは、校長先生が好きだからやっていた。よかったら他もやっている。中学校もご存じのように指導要領が来年から変わり、ゆとりから勉強時間数確保となり、総合学習もなくなっている。今小学校は分からないが、中学校で謡わせて謡曲「高砂」を広めようというのはあまり期待していただけないかなと、難しいのではないかと。

【議長】 どういうふうにアイデンティティをもっていくかは、色々なパターンがあって、謡えるようになるのもひとつであり、歴史として持つのもひとつ。謡曲「高砂」という全国的なブランドを持っている。それをある意味利用して、地域の人にとっては誇りになればいいし、地域以外の人にはそれが発信力になればよいというのが委員のご意見であり、先ほど委員がおっしゃったように具体的にどうするかは、色々問題があると思うのですが。でも中学生がその知識を持っているかどうかとか、小学校では地域教育があって中学校ではあまりやらないので、中学校で地域教育をどのように組み込んでいくのか。

【委員】 建築士会の勉強会があったときに、スタートは謡曲「高砂」を合唱団の方に謡っていただいた。会議の雰囲気が違った。高砂の町並みを考えるというテーマでしたので、深さがあった。これは財産だなと実感した。子どもたちに教えるのではなく、自分たちでやろうということをやりたい。優先順位では早くやってもらいたい。高砂というのは昔、みんなから羨望のまどであり、高砂市民は誇りに思っていた。今はそういう雰囲気がない。羽田空港で吉兆が作っている空弁当は「高砂穴子弁当」であり、新神戸駅で売っている弁当は「穴子弁当」。なぜ羽田空港で売っている弁当が「高

砂穴子弁当」という名前を吉兆が使っているかということ、ブランドがあるからなんですね。ブランドを活かす、ここでいう7番の特産品の開発、販売も例えば穴子になると下村商店とかひとつの企業に属するから市からするとどうこうとなるだろうが、それは関係なしに日本中からすると通用する。理屈をこねて、タンスの中にいれて、自信がないまちだとみんながかばいあうのは何か未来があるのか。10年計画というなら未来のためにもっと今あるものを売っていかないといけない。私が目指しているのは連続ドラマ小説で高砂がメインとなるまちづくりをやってもらう。メインとなるかはまた別の部分ですが。

【議長】 謡曲「高砂」とか、高砂のブランド化といいますか、ブランドをしっかりイメージしたらどうか。アイデンティティというかもしれないですが。謡曲「高砂」というのは全国的に有名ですし、もっと活用するというのを考える。そのために、あるいはそれを踏まえて、項目の中で人材育成であるとか、子どもの学習機会であるとか、具体的にこういった方向でいいかとか、順番はどうするかとか、そのあたりはいかがですか？

【委員】 先ほどから40歳以下だったら、全然謡も知らないという話ですが、私は謡曲「高砂」の歴史とかは聞いたことがない。たまたまテレビや映画の中で結婚式のとときに謡を謡っているから結婚式の謡だと分かるくらい。基本的にライセンスを持った先生に教えてもらわないと謡曲「高砂」ではないというようなことはない。この前も少し言いましたが、「月の沙漠」は市内で流れていますが、普段から耳に慣れて、それで高砂で生まれて、高砂を代表する謡曲だなど、そういうことが身体で覚えられたらいいかなと。

【議長】 項目で1から7まであげていますが、先ほど「月の沙漠」の例を出していただきましたけど、5番の「文化を中心とした行政施策の推進」の中に入ってくるわけですけども。

【委員】 普段から耳慣れるというか、いつでも対応ができる。例えば龍野に行ったら赤とんぼ。まちの隅から隅まで赤とんぼ。山があって、石の前に立ったら歌が流れるとか。別に龍野のマネをしようというわけではないが、石の前に立ったら「月の沙漠」が流れる。そういった身近に高砂の特徴が出てくるものがあればいい。

【委員】 ただ、教える場合きちんとしたライセンスを持った人でなかったら教えられないというのが、教える側の話なのです。だから聞く側としては、誰が謡ってもいいと思うかもしれないが、教える側として、きちんとした社

会の仕組みがあるから。別にライセンスのある人が謡わなかったら本物じゃないとかそういうことではない。

【議長】 おっしゃるとおりだと思います。謡曲「高砂」の習いを市が支援しますというわけにもいかないの、それは切り離して。委員がおっしゃっているように、せっかく謡曲「高砂」というブランドがあるのだからそれをもう少し使わせていただきたいということがあって、大項目にあるようなものを整理していったらという意見だったと思います。

【委員】 私も「高砂や」の頭の部分は聞いたことはありますが、その神髓のところは聞いたことがない。それであれば謡曲「高砂」がどこかで流れているのか、市役所の中で流れているのかといえば流れていない。それで知らしめるとするのは無理であって、下地をどこかへ持って行って、知らしめる。耳に入れるのが一番大事で、それを怠っている。私も同じで、民謡をやっているからといっても、謡曲「高砂」を流したことがない。来年度は開演前にでも流します。できるだけ協力はします。まして聞く方からしたら何も上のほうの方のものを望んでいない。高砂と言え、松が有名で、ということは謡曲「高砂」だけではない。めでたい節だから、結婚式で使っており、前の席は高砂席という。そこには高砂の名前が出てくるので。いろんな面で知らしめるとすることが重要。何かの面を出すというのが根本。

【議長】 そうすると、4番の「情報の発信」ということですね。

【委員】 私が思うのは、1から7までのどれを選ぶかではなく、この中で今委員がおっしゃったように、高砂のブランドを日本の中に知らしめたいのであって、そうすると「市民と行政の連携」、「情報の発信」もしなければならぬ。ですから一本の柱というのは、謡曲「高砂」を文化振興として日本に発信していこうじゃないか、まずそれを一行にあげたらいい。そして、7つの内の順番はまず情報発信ですよ、育成ですよとか、その中で順位をつけていけばいい。この中の1から7のどれかひとつを選んでの順位ではなしに、まず何をするか基本をはっきりしなければならない。私は委員がおっしゃる謡曲「高砂」であれば、いろんなこの7つの中のすべてが使える。使えるものが私はいいと思う。ですからその方向性でとられたらどうでしょうか。

【議長】 謡曲「高砂」をひとつのシンボル、何か拠り所としていながら振興を進めていくということによろしいですかね。

【委員】 前に伺ったのが、能というのは格式が高くて、謡曲というのは能で使う謡であり、格式がある。こちらでは埋没しないようにと思ってやろうとしても、教える側は逆にそれはどうかとなるのではないかと。私が思うのは、何かひとつそれなりのものができたら自信もつくし、勉強もしていく。高砂市民としての自覚が出てくる。高砂市民だからもっとしないといけないと。そうすると絶対このまちはよくなると思う。

【委員】 プロの方が一番難しいことを言うわけですが、それはそうとして、きちんと教えてくれる方にはこちらは筋を通して、これは高砂としては別ですとやればできる。

【議長】 謡曲「高砂」があがりつつあるが、よろしいでしょうかね。例えば他の音楽もある、文化もある中で、高砂のアイデンティティとして使うのは、他の文化団体としてはどうでしょうか。

【委員】 謡曲「高砂」というのは大いに結構なことだと思う。長い歴史もありますし、高砂というまちが成り立っていること自体が歴史の続きで、現在があり、未来がある。私自身も興味深いけど全然知らない。若いお母さんたちから教えてもらえるなら教えてほしいという声をよく聞く。学校では取り立てて練習するというのは、難しいだろうが、例えば登校したときに流れているとか、給食のときに流れているとか、若い子たちはすぐ覚え、いつのまにか謡えるようになる。芸術としての謡曲まで持っていかなくてもよい。しかし、私たちが教えていただく場合は、専門的なことまで教えてもらわなくてもよいということでは失礼なので、きちんと習わなければならない。きちんとした師匠に習って、謝礼も払わなければならない。きちんとした芸術を知った上で、継承していく。歴史も教えていただき、数多くの謡曲があり、歴史がある中で高砂だということも、我々も市民も分かり、子どもたちの世代が聞き馴染んで大人になり、もっと知りたければ専門的なことを知ってもらおう。グローバル化の中で、日本は芸術的にも音楽的にも若い世代がどんどん活躍していく国になっている。歴史的なものばかりでなくて、どんどん新しい若い才能がある方たちが入ってこられるように。国際的な音楽として、芸術もどんどん高砂に。高砂は文化がすごいぞと、何かエネルギーがあるぞという、そういうものが高砂は謡曲だけでなく、クラシック音楽、高砂高校のジャズ、シャンソンなどにも、高砂は芸術的な面ですすごいぞということが、謡曲「高砂」を発信としてでもできると思う。それこそ文化芸術に力をいれているぞ、人材育成もしているぞ、高砂はやっているぞということが伝わっていくと思います。もちろん第一に謡曲をしていただいたらいいと思いますが、我々としてはクラシック音

楽、ダンスなどとも組みながら楽しく、助成も申請しながらやっていきたい。国とか助成のやり方とかあればどんどん送っていただきたいと思いますので、それは平行してやっていけると思います。

【委員】 事務局にお聞きします。5番のところですが、意味は分かるが、もっと詳しく考えるにあたり、説明していただきたい。

【委員】 姫路市であれば、助成制度があり、企画書や予算書を出して、何パーセントかいただけるというものがあり、助成制度すらここはない。

【委員】 あったけれども、財政が困難になってやめた。今までは、例えば文化連盟に所属しているところが、イベントを行う際は文化連盟の方で申請を出せば半額施設の補助をしていた。

【委員】 させるなら文化的な活動をきちんとしていなければならない。5番と関係してくる。

【議長】 もしよろしければ、今の制度で「夢のシロ」のことも書いてあるので、少し説明を。

【事務局】 大項目5番の小項目①に記載しております「夢のシロ」につきましては、市民提案型地域推進事業として、市民が主体的・自発的に行おうとする企画・提案事業に対し市が補助金の交付を行うというもので、本年度から新たにスタートした助成制度でございます。

【委員】 新しく企画して、企画書を出してということですね。

【事務局】 はい。市民の自主的な企画と行動ということで、文化に関しましても歴史・伝統の継承や新規事業への取り組みなど様々なパターンの提案が可能であるものと考えております。

【委員】 ただ漠然としたものでなく、きちんとしたものを書いてということですね。

【委員】 文化的なことに対して、予算の計上があるかないか分からないようですが、風船を膨らませようとしているが、風船の中味に何を入れるのか全く分からない状態で、どれだけくらいの風船を膨らませ、予算はこれくらいみているということで、組んだら使うのではなしに、使うのはこれから何

に使うかを検討すればいい。予算を作ったら使うというのはばらまきである。そうではなく、今年か来年か使うか使わないのではなく、予算を出して、いざというときに使える、もしくは実際に使っていいのか審議し、消化していく状態にしておく。金額的なことは一切言わなかったのだ。

【事務局】 現在、文化振興方針・計画等の策定に向け審議をお願いしておる段階でありますので、それに対しての今後の文化予算については、まだ具体的な検討までしていない状況でございます。

【委員】 後からでもいいのでは。来年度はこのくらいの予算を組んでどうこうするとか。そういうところが全くない。

【事務局】 審議会としてのご意見がいただけましたら、当然そういった方向に向けて進めて参りたいと考えております。

【委員】 予算のことで。体育協会と文化連盟は社会教育団体です。社会教育法ができ、社会教育団体については支援し、特にスポーツ、文化については物資ともに支援するようという法律がある。体育協会と文化連盟について今予算は分からないということだが、新しい文化振興の予算以外に、社会教育法という法律がベースにあるのだからきちんと予算はつける。そして、新しい文化振興の予算もとってもらおうということになると思います。

【議長】 予算についてここで議論するのは難しいので別の機会になるかもしれませんが、謡曲「高砂」をひとつのシンボルとしてという、ここまではご同意して頂いたということですのでよろしいですね。委員がおっしゃったように、ひとつここに力をいれることで、あそこは文化に力が入っているということが分かれば、他の文化も盛んになるだろうという考え方でよろしいですかね。そこをまず出した上で、具体的になると1、2、3、4、5、6、7があるという組み立て方の方向性でよろしいですかね。総合施策としては、まず謡曲「高砂」についてどうするかがまず入ってくるというイメージになると思います。

【委員】 骨組みとしての骨は、謡曲「高砂」をシンボルにするということで、発表会もする、子どもの育成もするというので、必要なのはみんな一緒に、これをするからこれはいらぬということはない。

【議長】 方向性の柱立てとして、目指すものがなかったから、それをまず大きくだして、これを実現するために7つの項目をあげますと。これを文化振興

方針の考え方としていくということでご同意していただいでよろしいですかね。

【委員】 そのときに市役所の中の課によって、例えば謡曲の合唱も教育委員会がしているとか、力をいれている場合もありますよね。そのときは、個々で分かれてするのではなく、市役所の中で協力しながら進めていける体制づくりをとっていただけたらよくなると思うのですが、そこはどうなのですかね。

【議長】 5番のところになるのですが、市民の誇りを醸成するのは教育委員会だとか市長部局とか分けて考えるわけにもいかないでしょうが、不安になる部分がおありなのですね。

【委員】 新聞に載っているのを見れば教育委員会が行っているというのを見たので、両方が協力すればもっといいものになるのにとあって、言いました。

【事務局】 文化財の関係で歴史文化基本構想というものがあまして、大きな文化の中の一部です。そこだけが先走っていくのではなく、市役所の大きな部分で考えないといけません。文化スポーツ課だけでなく、教育委員会、まちづくり部、産業振興課にもかかわってきます。いろんな部署が話し合いをしながら、具体的な施策、事業も含めて考えていかないとできないことですし、どこかが先走って、また違うところで同じような事業をすることはあってはならないので、それはお互い協力をしてしまおうと確認をしました。文化財のことに限らず、すべての部署が連携を持つことの必要性を確認しました。

【委員】 子どもの育成のことは教育委員会からは離せない。だけど合唱団については文化の方へ当然来るべきだと思います。文化連盟が来ているのだから。

【議長】 ほかにご意見、ご質問等ございましたら。

【委員】 依頼なのですが、次回の会議前でもいいので、「ブライダルシティ高砂」、「新高砂音頭」、「高砂市歌」をみなさんぜひ一度聴いていただいたらまた違う見方ができると思います。

【議長】 用意をお願いします。

【事務局】 手に入るものを調べて用意いたします。

4. その他

(1) 文化振興に関するアンケートについて

【議長】 議事のほうですが、その他の事項で、アンケートについての説明を事務局からお願いします。その後ご意見を賜ろうと思います。

【事務局】 5ページの資料3をお願いします。公民館活動グループと文化連盟団体を対象に実施した文化振興に関する調査結果について、回収した対象者の年齢が61歳から80歳までが多かったということから、もっと若い年齢の方の意見が必要ではという意見をいただきました。市内の公立高校3校にアンケートを依頼し、11月中に回答をいただく予定にしています。内容は高校生が文化とどのようにかかわっているか、かかわりの中で支障となっていることは何か、高砂の文化的な財産について何を大切に思っているか、今後どのように文化とかかわっていきたいかなどとなっています。対象が高校生ということで、回答は選択方式がほとんどとなっています。回答結果については次回審議会でもとまりしだいご報告したいと思えます。

【議長】 どうでしょうか。何かご意見があれば。

【委員】 「高砂はどういったまちか」ということを聞いてほしかった。若い人たちや他市の高校生が高砂をどう見ているのか。

【議長】 回収は11月末ですね。

【委員】 次に進む前に少し。私は個々の活動が大事だと考えていますが、活動する人たちが集う場所みたいなものはあるのか。

【議長】 集まるということの大切さはある。文化振興方針の中でいうならば5番の連携ということに当てはまると思う。振興の具体的なところになってくる。

【委員】 建物を作るとなると管理などが大変になる。公民館が高砂は立派なので、作らなくてもよい。公民館を利用すればよいと思う。

【委員】 新しいものを作れと言っているのではない。空間の確保がどこかあれば
と
思
っ
て。

【委員】 公民館は使おうと思っても割と詰まっている。県民交流広場が各校区ご
とに広がってきているが、どういった時間で空いているかはよく分かりま
せんが。

【委員】 ずっと空いているところもあります。

【議長】 そういう情報をもっと出していただければと思います。

(2) 今後のスケジュールについて

【議長】 最後に、今後のスケジュールについて、事務局から説明願います。

【事務局】 次回第3回文化振興審議会ですが、スケジュールでいえば2月上旬と
なっていますが、ずいぶん先のことで、日にちまで設定ができかねますの
で、日程は後日連絡します。場所は南庁舎2階会議室2で行いたいと思っ
ております。

5. 閉会

【議長】 これで議事はすべて終了しました。副会長からあいさつをお願いします。

(副会長あいさつ)

【司会】 これにて散会いたします。ありがとうございました。